

亡き妻の思い出

(1)2022/10/9 渡辺洋一
(5)2025/12/25

2021年7月末からの妻の通院、8/10横須賀市民病院への入院、**8/20早朝の急変**と逝去・・・妻は72歳で急逝した。その当時は悪夢・呆然自失の思いだったが、暫く時を経て亡き妻に頂いたお悔やみの言葉や生前の思い出を纏めておこうと思い立った。妻の思い出を忘れずその人柄に触れて頂ければ幸いです。

死去お知らせ等を受けて多数の方々から**追悼のお言葉**を頂いた。以下にそのあらましを記す。

=====

◎誰にも愛され、信頼され、頼れて仕事のできる人。それでいて時にはひょうきんでもあり、決して他人を否定しない、素敵な人。

◎コーラスでは包み込むように響く声でアルトをしっかりと支えハーモニーの基盤となって。心も体も大きく、声も豊かで重厚なアルト。

◎優しくて思いやりがあって柔らかなお人柄。年下の私たちに気を配り声を掛けて下さいました。お母さんのような存在でした。

◎**クローバーの会**の要として、自分たちの力で合唱創りをするスタイルを確立し、横須賀市の合唱文化の範として40年の長きにわたって活動されてきました。その中心的存在、重鎮が貴女でした。



◎合唱連の常任理事としても1989(平成元)年から6年間豊かな合唱経験を生かし合唱連がこれから発展する時期に多大なご尽力をいただきました。

◎40年に渡り横須賀市の合唱文化にご尽力いただいたことに感謝申し上げます。

どんな時もお自分の主張は控えめで。だからこそ的を得たご意見には皆の同意を得られ纏める力あったのでしょ

◎グリーンハーモニーの頃は、頼れる副団長として本当にお世話になりました。

◎長年にわたる年賀状のやり取りでお声や笑顔が見えてくるような優しい文面でとても親近感を感じていました

◎人望も厚くお仲間の方々からも頼られる存在で多方面にとっても才能あふれた方でおられたのですね

◎個人的にも渡辺宅で、何度希代子さんの美味しい手料理をご馳走になった事でしょう！ あんなに温かさを感じる美味しい料理を作れる人は居ないと思います。

◎「才能と母乳は出さなくっちゃ！」や、「道具集めて、熱冷めて～(趣味の川柳)」…、名言がいっぱい。文学的才能にも圧倒されました。周りの皆さんから頼りにされ、愛される方でした。

◎あの包みこ込むように響くお声は、お人柄そのもので、神様が希代子さんに下さったご褒美(宝物)だと思います。天に召されても、私達の歌声が響いた時、そのオーラの中に、希代子さんはいらっしゃる気がします。ずっと忘れません。

◎歌舞伎・文学界などで「誰々はXXさんの奥さんで・・・」などの人脈に詳しいひとで機会があれば教えてくれました。

◎お伺いした際に見せていただいた家族新聞。本当に仲の良いご家族であり、愛情深いご家族である、それもみなお父様のやさしさとお母さまの明るさで築かれたご家族の絆あつてのことだと思いません。(息子友人)

◎中学時代は学力成績が良く、リーダーシップに富んだ素晴らしい女性でした。同窓会、クラス会には毎回必ず出席し、元気な印象しかありません。一昨年7月の逗子コーラスコンサートと11月のクラス会が最後でした。

◎希代子さんの隣にはシスターが乗っていらっしゃったとか。そのシスターが、「あの斜め前に座っている日本人の女性達はあなたのお子さん達ですか？」と…「いえいえ、私の友達です」希代子さんが嘆いていました。「昔から私はよくお母さんに間違えられるのよネ」彼女の落ち着いた思慮深い態度がそう思わせてしまうのでしょうか。



◎「健太郎の部屋」を見て頂いて有り難うございます。2004年から家族の近況を新聞で年1回更新していましたが、2021年から妻も歳をとらない人になりました。

◎希代子さんが、表現豊かに歌ってくれたこと。印象深く心に残っています。

いつも、暖かい心で、暖かい歌声でクローバーを支えてくださった希代子さんです。

◎丸太小屋での夏合宿。皆でおしゃべりしていた夜中、急に近くに虫が来て、私は思わず隣に座っていた希代子さんの膝の上に乗ってしまいました。私にとって希代子さんはお姉さまのような保護者のような方でした。きっとこのハプニングは希代子さんもずっと覚えていて下さったのではないのでしょうか？

◎希代子さんのお人柄がたくさん仲間を作り、慕われ、尊敬されてきたのです。本当に希代子さんに頼ってきた私達は、これからの道しるべを失くしてしまいどう歩んでいったらよいのでしょうか

◎昨年の長岡市蓬平。大切な思い出になりました。こんなに早く別れることになるのであれば、最も多くのことを聞いておけば良かったと今更ながら思っています。

◎太極拳でもご一緒しており、いつもにこやかに優しいお人柄は太陽のように温かくお心遣いも細やかで私にも大切な方でした。

◎希代子様は本当に大きく温かく理知的で冷静で頼りになる姉君でした。

お心遣いのお写真を飾り希代子さんの在りし日を偲んでおります。

◎学生の頃新潟のお宅の蔵でお世話になったこと、結婚が決まったことを嬉しそうに知らせてくれたこと・・いつもお気持ちが平らで温かく、思慮深くて真心を込めて接して下さい、私の憧れで尊敬する人でした。(青学 GH の友人)



◎悲しみは“日にち薬”とか世間では言いますが、そんな特効薬なんてあるでしょうか。ただ日にちが過ぎることで慣れていく面はありますが、悲しさ・寂しさ・虚しさは消えるものでないと永六輔さんも言っていました。

◎ご葬儀の日はクローバーの方々と歌ってお送り致しましたが、未だこの世に希代子さんがいらっしゃらないとは実感できません。いつまでも私達の心の中に生きていらっしゃいます。

クローバーの舞台ではいつも深いアルトで曲を支えて下さいました。

◎希代子さんはいつも皆のことを考え自分より人を思い、団を支えコーラスもアルトで10人分の温かく柔らかくしっかりと支えていらっしゃいました。

◎クローバーとともに長沢社宅では子育ての真最中、一緒にいわば生活を共にした日々で沢山助けて頂きました。

◎半世紀に亘る長いお付き合いの中でたくさんの思い出を作ることができました。真っ直ぐで明るくやさしかった希代子様に伝えたくて。「ありがとう、いつか会える日までさようなら」と。

◎話合いの時には皆さんの話に静かに耳を傾け最後に皆が納得するご意見をくださって導いて下さいました。その上楽しい面もおありで明るさと安心からクローバーの柱でいらっしゃいました。

◎希代子さんは学生時代から「お母さん」のようで本当にあたたかいお人柄でした。

クローバーを立ち上げてあのようなすばらしい合唱団に育て上げられたのは歌の実力はもちろん、暖かく誠実で誰からも慕われるお人柄があってこそ思っていました。

◎希代子さんは天国に行ってしまったけど心はいつもそばにいるからね！

「死ぬ直前まで元気に暮らし**2週間ほど入院して潔く逝く**」というのが理想でしたが・・あまりに突然で、悲しい淋しい以外の言葉がありません。

◎思いやりのある心優しい希代子さん、もうお声を聞くことも手を握って差し上げることもできません。神様はなんと悲しいことをするのでしょうか。

◎目をつむるとお元気なころの希代子さんが浮かんでくるので、しばらくその希代子さんと一緒にいます。

◎長沢での PTA の広報部で大変お世話になりました。生き方が凜としていらっしゃる、そして笑顔が本当に太陽のような方でした。

=====

このように希代子の人柄・魅力など称える言葉を多数頂くにつれ、その妻を死なせてしまったことを申し訳なく思い後悔の念がまた湧いてくる。

なお、2022年10月5日にクローバーの会の皆さまから「**渡辺希代子を偲ぶ会**」を開催して頂き、そこでも多くの「思い出の一言」を頂いた。(希代子の部屋：ホームページ)

希代子と私の出会い（渡辺洋一）

昭和48年10月、私達は新潟市の護国神社で挙式した。主賓に当時のNTT研究所戸田室長、私の大学と会社の同期の方々にも出席頂いた。妻は着物姿でかつらが重かった、もうしたくないと溢していた。



新婚旅行は九州の桜島、阿蘇、指宿など廻ったが、阿蘇で乗馬した際貴方より私の馬の方がずっと大きかった、とあとあと揶揄われていた。

彼女とは新潟の知合いの方の紹介で、新宿紀伊國屋で会い、その後私を引っ張ってくれた。希代子が明るく頼もしい感じで話してくれ、一寸真野響子に似ている所にも惹かれた。その頃の妻は元気はつらつで充

実した身体をしていた。

私は横須賀の通信研究所に配属され、最初の社宅は横須賀市六浦だった。軽自動車出勤の際、窓越しに妻が見送ってくれたことが写真と記憶に残っている。その後研究所近くの林社宅に2年位居たが、転居先の建物がいつも新しいねと妻は喜んでた。

昭和53年、市内長沢グリーンハイツのNTT社宅に引っ越したが、そこで同じ棟にいた方々との交流が始まり今でもお付き合いさせて頂いている。そして母親の皆さんの交流の中でコーラスグループ「クローバーの会」を立ち上げることになった。妻は長野照美さん等とともにその中心的メンバーとして活動



していた。54年2月、仲間のある方と賛美歌をハモったのが12人での立上げの原動力になった、その時社宅の周りにクローバの花が咲いていた、と語っていた。

クローバーでは夏合宿で剣埼の「丸太小屋」に泊まり込みの練習もしていた。

妻は青山学院大学のグリーンハーモニー合唱団で歌っていたがその経験をクローバーでも生かしていたと思う。GHの人たちとは結婚前後から私もお付き合いを頂いていた。

ついでに言うと私も新潟高校の時代、クラス対抗のコーラスを練習したがコーラスの中に居てそのハーモニーの素晴らしさを初めて感じたことをよく覚えている。

長沢の社宅では5階に住み、希代子は幼い2人をおんぶと手を引いて坂を下った駅近のスーパーで買物をし、重い荷物と2人を連れて坂を上り最後に5階の階段を歩いて上がっていた。そのお陰で足腰が鍛えられたと笑っていた。息子・娘にとっては力持ちの頼もしい母親だったに違いない。

ご近所の皆さんと家族ぐるみの交流があり、呼んだり呼ばれたりして歌を歌ったりもしていた。我が家に妻の実家からのピアノが置いてあり妻はそれを弾きながら発声練習などしていた。若さに溢れた日々だった。



近くの津久井小学校に2人を通わせ、妻はPTA役員などで地域活動をしていました。息子と娘は友達に恵まれ、妻はしっかりと育ててくれた。私は仕事で夜遅く帰ることもあり余り地域活動に参加できなかったが、休日には時々息子と近くの広場でキャッチボールなど楽しんだ。息子はリトルリーグでピッチャーなどしており、娘はピアノ教室に通っていた。妻はPTAや合唱連の役員をしていた頃、広報の活動を受け持っており、小学校の頃から文章を書くことが好きだった。クローバーでもプログラムの曲紹介などで文章を書いていて、私に意見を求めることもあった。クローバーの創作劇「11匹の猫」ではシナリオを分担していた。

息子・娘が小学生のころから家族で「ワタナベタイムズ」・我が家今年の重大ニュース、各自今年は何があったか・来年の抱負、の新聞、を毎年制作していた。

昭和60年の希代子の投稿：どちらかといえば足の遅い健太郎は去年に続き今年も一等賞。一年目はまぐれと思ったが、二年連続となるとこれはもう実力かな？ 「人生投げたらアカン！」と柔道の山下さんも言っています。(希代子)

昭和62年(健太郎 小学校卒業)：夜泣きをすれば一緒に泣きたくなり、“牛乳アレルギー”と診断されるとオロオロしてしまう愚かな母でごめんね。育ってくれてありがとう。卒業文集の「将来の希望」に「世の中の役に立つ人間になりたい」と書いたことを本当に嬉しく思いました。その気持ち、大事にしてね。(希代子)

ワタナベタイムズは今もホームページ「健太郎の部屋」で一部を閲覧できるようにしている。

妻はミシンでペンケースやサイコロバッグを作ってくれ家族で使うほか、近所の皆さんにもお渡しして喜ばれていた。毛糸のマフラー・手袋なども編んでいた。裁縫道具や生地は今も家に残されている。元クローバーの方にペンケースやコンサート・チケットを送った時のお礼の手紙が残されている。妻が着ていた夏の衣服、クローバーの方と一緒に作ったワンピースなどの衣服は今も部屋のハンガーに掛けたままにしている

「私が居ないと何も出来ないひとなのよ」と私のことを友人に話すことがあった。妻と過ごした家での妻が居ない暮らしは本当に辛く侘しい。これはその境遇になってみなければ実感として分らないだろう。70代になりいずれは・漠然と思っていたが、それがあまりにも早く突然だった。太陽のような妻の傍らに居たお陰で暖かく人並みの人生が送れたと思う。



和 59 年(1984 年)、クローバーの会がファーストコンサートを三浦海岸駅近くで実施した。30 代のママたちが主に子ども達家族の前で「宇宙戦艦ヤマト」などを熱唱。妻は中心メンバーとして二重唱など歌い、娘は小学生で花束贈呈を行った。

私はその当時から演奏会のビデオ撮影係を担当しており、コンサートの度に撮影したビデオの DVD は 7 回分くらいになると思う。



またクローバーの関係で依頼されピアノ・声楽の発表会の撮影も行っていた。

1989 年(平成元年)8 月、私達は横須賀市長沢の社宅から市内栗田の一戸建てに転居した。社宅の有志の方、会社の部下の人たちに手伝って頂いた。新居では健太郎と真理子に 2 階の 1 部屋ずつ、私の仕事部屋など。台所はやや手狭だったが、妻はシステムキッチンでの料理など、満足げだった。

転居の年に新潟の私と妻の実家から両親に来て貰い、三浦半島の城ヶ島・江ノ島などを観光して貰った。

転居の数年後、クローバの方のお宅で海外からのホームステイがあり、ステイ中に栗田の渡辺宅にも高



校生を何人か招待・歓談した。その数年後の 95 年、渡辺宅でも海外のボーイスカウト 2 人のホームステイ受け入れを行った。観音崎の自然博物館ラウンジで喫茶など。ボーイスカウト OB の方だったと思うが、健太郎 185cm

と同じ位の背丈、並んで撮ったツーショットがアルバムに残っている。

妻はよく演奏会の CD をカーステレオで聞き、自分も歌っていた。後年になるが、妻の古希祝いを箱根仙石原で行ったのち私の運転で妹夫婦を乗せてスカイライン等を観光したが、同年行ったクローバーコンサートの CD をずっと聞いていた。

自分はアルトだけでなくメゾソプラノも歌えるので歌ってみたい、と時々言っていた。

妻はアルトのパート練習を時々家で行うことがあった。特に親しくしていた 3 人の方と家でおしゃべりをする事もあったが、そんなとき私は外出することが多かった。

また家のテレビで歌謡曲やコーラス(BS にほんのうた)の番組を見ながら自分でも歌うことが多かった。特に近年コロナ感染拡大でコーラス練習が中止されていた頃は、家での発声練習でストレスを発散させていたようだった。

1998年のわたなべタイムズ 「クローバー20周年演奏会」の記事：

7月19日(土)、よこすか芸術劇場でクローバーの20周年コンサートが開催されました。

昭和54年3月に長沢社宅の仲間12人で始まったクローバーの会は20年間で50人の大所帯となり、横須賀を代表する合唱団になりました。今度のコンサートはいわば成人式。1,200人のお客様を前にして4ステージ。30曲を皆で心を合わせて歌い終わったときの感動は言葉では表現できません。

「日本の歌あり、アカペラあり、ミュージカル仕立てのステージありと、本当にバラエティ豊かで素晴らしいコンサートだった」という感想が数多く寄せられ、主催者側としては大満足です。

なかでも第3ステージはクローバーの本領発揮という感じで独唱、二重唱、楽器演奏に踊りまで加わってもう百花繚乱。大学の先輩でGH-OB合唱団指揮者の森さんが「とにかく楽しかったよ。いい合唱団だね。」と手放して褒めて下さいました。合唱連の山田先生からは「心に染みるピアノシモが聴きたかった」と新たな課題を頂きました。

これからどんな合唱団になっていくのか、どんな出会いがあるのか分かりませんが、「クローバーの母」として精一杯活動していこうと思っています。

※妻は少しあがり症なところがありソロなど歌う前から緊張していたようだが、仲間の皆さんと築いたハーモニーのお陰でクローバーを卓越した合唱団に育てることができたのだと思う。

「クローバー20周年演奏会」を終えての希代子の感想

田舎(新潟県燕市)の両親がコンサートのビデオをととても喜んでくれました。父は第3ステージが特に気に入りで、見る度に元気を貰える気がするそうです。「演出がいい、チームワークがいい、芸達者が揃っている、編曲する人もいるのか」と感心することしきり。おおシャンレリゼやヘイルホーリークイーンの場面では「1人1人の個性がよく出ていて楽しいね!!」だって。母は「いいお仲間が沢山いて幸せだね」としみじみ申しました。

孫たちが裏方で働いている姿も見ることが出来て「少しはお役にたっているのかなー」と嬉しそうでした。

クローバーの皆さん本当にどうもありがとう。お陰で親孝行ができました。



2019年7月17日 クローバーの会コンサート2019 が逗子のなぎさホールで開催された・早朝、妻と葉山の遠藤先生(指揮者)を迎えに行き、逗子の会場へ。午前のリハーサル中にビデオ撮影準備・試行、昼食は遠藤さんと楽屋で弁当。14時から第1ステージ Messe～第4ステージ全員合唱まで盛況だった。



1994年頃、私は千葉県幕張に単身赴任していた。妻は月1～2回、単身寮に来て世話を焼いてくれた。ある時妻のためらぼーとで誕生石ルビーの指輪をプレゼントしたが、彼女がポーズをとり嬉しそうに笑った姿が脳裏に焼き付いている。

10月、私の誕生日に妻は薔薇の花束を持ってきてくれた。当時公演していた「キャッツ」を2人で観劇したことも楽しい思い出だ。

月に1,2回、金曜日に自宅に戻り妻や子ども達と過ごすことが出来た。月曜日早朝妻はJR久里浜駅まで車で私を送ってくれた。そこから東京駅で京葉線に乗換えるのだが、海浜幕張駅に向かうホームまで駅構内の長い距離を歩いたことを憶えている。



私は研究所から子会社のソフトウェア部門に異動し、横浜に10年位勤務していた。中華街に近く、妻に食事に連れて行ってくれと何度か頼まれたがその機会はありませんでした。でも妻が70歳の誕生日(7/17)に中華街で食事し店に頼んで食卓にバースデイの花火を点けたりすることができた。その時の映像が残っており、妻の笑顔が忘れられない思い出になった。



1999年5月、息子が入社2年目5月に急死した。家族の嘆きは一通りで無く、取り分け妻は自分の責任であるかのように沈んでいた。入社の日、息子は私らを中華街に招待してくれた。北海道で友人とスキーをしたり、宿で法華を食べたりしていた写真が残っている。いつも人を気遣い自分のことを後回しにする優しい性格だった。

妻から息子への惜別の言葉：

私の子供に産まれて来てくれてありがとう。母親として本当に充実した24年間でした。
至らない母でゴメンネ、でも精一杯愛していました。

これからはずーと私の傍にいて私達を見守っていて下さい。

息子の死は妻にとって、いま妻を亡くした私と同様に悲痛で無念だったと思う。

息子が亡くなった後、在りし日のビデオを観ようとしたとき妻は突然涙を流し始めた。今はもう居ない



という無念さでのことだったろう。私も今、亡き妻の写真、共に行った旅行地の風景映像などを見ると涙が出てくる。

息子が死に至るまでの心情がいかばかりだったか、今も胸が痛む。

息子が亡くなったとき、あと50年もすれば皆

あの世に逝ってしまう。大した違いは無いんだ、と自分に言い聞かせていたことを思い出す。

庭のプラムの木が大きくなり、妻は毎年実を穫ってジャムや梅干しを作っていた。高い枝の実は息子が私が木に登って穫るようにしていた。多く穫れた年はコーラス仲間にお裾分けもしていた。

プラムは毎年枝を伸ばし、隣家への枝を剪定するのに苦労していたが2020年冬、幹からバッサリ切って貰った。妻はもう十分穫ったと笑っていた。その年に外壁のリフォームを行い、妻は「家のお化粧品も大事よね」と喜んでいた。

クローバーで知り合った方々と5年位の間、妻は宅配弁当「菜々や」を活動もしていた。市内アパートの一室で弁当を作り、浦賀などかなり広範囲の主に高齢者の方々に毎日弁当を宅配していた。私は依頼されて毎週変わる弁当のメニューを紹介するホームページを作成していた。

いま私はその時の高齢者同様、宅配弁当を届けて貰う日々を送っている。

妻は近くの久里浜で太極拳のレッスンにも参加していた。そのユニフォームを着て、度々私にスクワットの仕方・膝はつま先より前に出さない・などを教えてくれ一緒にやってみたりした。太極拳を続けていて腿が少し太くなってきたと喜んでいた。

歌舞伎の吉右衛門さんが好きで、よく「鬼平犯科帳」を見ていた。一度2人して歌舞伎座で「俊寛」を観劇したが、その時の妻の嬉しそうな笑顔が忘れられない。

妻は歌舞伎や芸能界の人脈に詳しく、私は時々「吉右衛門さんは初代の家に養子に入り・・・」などと教えて貰っていた。



小説は山本周五郎、藤沢周平、向田邦子など色々読んでいた。樅の木は残った、蝉しぐれ、阿修羅のごとくなど放映され私もよく記憶している。主役の平幹二郎、小林桂樹などの作品も。他に映画の市川雷蔵もファンだった。私は妻の妹・泰子さんに「後ろ姿が雷蔵さんに似ている」と言われたことを覚えている。

車で山形県鶴岡市に行った際、藤沢周平記念館を訪れ二人で色々話したこともあった。

コーラス関係ではデュークエイセスがお気に入りで大分前だが永六輔・いずみたくの「にほんのうた」やジャズのレコードを繰返し聴いていた。

青学出身なので「学生時代」などもよく歌っていた。同じ青学のペギー葉山さんが数年前三浦市でコンサートをやられた時2人で聴きに行った。妻は外見がペギーさんに似ていると言われたこともあり、私も他人とは思えない気がした。

ペギーさんが歌っていた、深夜便の「夜明けのブルース」、「おもいで岬」をこの頃また聴いているが、五木寛之作詞「あの人は今いずこに・・・」の歌詞がしみじみ身に染みてくる。

妻は子どもの頃、父親・昭三さんが歌っていた「憧れのハワイ航路」といった唄をよく憶えており、時たま「私は何故こんな古い唄が歌えるのだろうか」と言いながら歌っていた。昭三さんは新潟県の喉自慢大会で準優勝したことがあったそうだ。

60代以降、二人で加山雄三、石原裕次郎等の歌を好んで聴いていた。高田みづえの声は聴き易く疲れな、薬師丸ひろ子は透明感がありCDを借りて何度も聴いていた。

映画も劔岳・ポヘミアンラブソディなど色々一緒に観た。横須賀 HUMAX で観て隣のシャトレゼで珈琲を飲みながら話すことが多かった。妙に記憶に残っているのが「珈琲が冷めないうちに」という映画で、少しの間過去に戻れるという設定。少しの間でも妻と過ごした時間に戻れたらどんなに良いか・・・

鎌倉の孫たちには大好きな苺、サーモン、赤飯などを鎌倉の家によくお土産に持っていったりしていた。孫娘には自分で縫ったワンピースなども。

孫息子の育て方について、早期改善の必要性から私は時に意見を言ったりしたが、妻は今のままで十分成長している、親に任せればよい、と言って合わないことがあり、娘の家と音信が途絶えがちになることも。それが妻にとってストレスになっていたようだ。妻は娘には負担をかけたくない、を第一に考えていた。

孫たちは何度も栗田の家にお泊まり来てくれ、二人で電車で来たときはJR久里浜駅まで迎えに行ったことがあった。



ディズニーランドに孫たちを連れて4人でTDL近くのホテルに泊まったこともあった。その夜窓越しに花火を見ながら妻は孫たちとはしゃいでいた。

何年か前、妻は買ってきた大根が二股でおかしな形をしている、と言って写真を撮り鎌倉にメールで送ったことがあった。孫たちの気を引こうと、茶目っ気のある行動だった。

妻は若い頃から写真を撮られるのが嫌いだった。私が「1枚だけ」と云って一緒に外出し何枚か撮ってしまうのが常だったが、良い気分になっていれば妻はそれほど拘ったりしなかった。

写真が好きな私は妻の佳い表情の写真を沢山残すことが出来た。それらを動画に編集しホームページで見れるようにしている。

21年の春、岩戸の桜並木でツーショット写真を自撮りしたが、それが最後の花見になってしまった。

2021年5月、孫娘がバレエに興味があり母親が発表会で撮ったビデオを見たいようだったので、私は1989年発表会のビデオテープを再生・ビデオ撮影しDVDにして渡すことにした。妻はメールで「お父さんが頑張ってDVDにしてくれた。誕生日プレゼントよ」と言って渡してくれた。

家の中では言わないが、外に向かつてはいつも私を立ててくれる人だった。

亡くなる2ヶ月前くらいまで希代子お気に入りのスーパーなどへ2人車で買物に出かけた。長井水産は漁港にあり、私は妻が買物の間漁船等の風景を撮影していた。鈴木水産やJAよこすか葉山の「すかなごっそ」もそうだったが、当分その方面の道を一人で行く気にはなれない。スーパーに出かけるとそこに妻が買物をしている姿を思い浮かべてしまう。

妻は生きが良く安い買い物 を心掛け、農家の方が出している出店などによく立ち寄った。

支出合計	残高	支出合計	残高	支出合計	残高	支出合計	残高
午後2時40分 富士塚小	久里浜イオン はもと茶舗	70-バー	お揃いのTシャツ	午後森田さん	カレー	おはるこ	おはるこ
午後3時30分 寺文保育園	（印） 川上さん			おはるこ	おはるこ	おはるこ	おはるこ
	洋一市民大学						

妻は随分前から**家計簿**を付けていた。日々の食材、診療費、公共料金、新聞代、コーラス会費、等々。

またメモ欄には「ことのみ演奏会 銀座王子ホール」、洋一市民大学、XXさんTELなど日記代わりにもなっていた。

筆跡は走り書きでも割と見易かった。

逗子海岸のイタリア・レストランもお気に入り、ランチの後逗子銀座や魚佐次で買物をして帰るのがお決まりのコースだった。今でも商店街の風景が目に浮かぶ。冬晴れの日、逗子海岸から江ノ島と富士山が綺麗に見えた。

2018年4月、孫たちを連れて葉山マリーナから高速艇で江ノ島辺りまでクルーズしたが、その時の妻の横顔が忘れられない。

妻は普段の外出では私が通院などで運転できないとき以外は運転しなかったが、駐車場の進路表示に反して車を動かそうとするとダメ！と厳しく叱られた。私が一時停止違反で捕まったときは警官に笑顔で対応してくれた。

車で外出のとき、いつも**妻が助手席に居て私に安心感を与えてくれた。**



食事といえば妻は**母校がある上野**に詳しく、あちこち一緒に歩いたが、妻が高校生当時よく行っていたラーメン店のチャーシュー麺・餃子がお気に入り、何度か二人で食べた。またその近くのあんみつ屋によく通ったと言っていた。

何年前か、江ノ電極楽寺近くの成就院で紫陽花を観光、高台から海岸線が綺麗に見えた。私は橋下を通る江ノ電に見入ったりしていた。長谷寺の丘からも2人で海岸を眺めたひとときを覚えている。建長寺に行ったときは奥の半僧坊まで上がっていったが、途中で竹林があり「ここで筍が採れそう」と言って歩き回ったことがあった。

1997年札幌から小樽へ、運河沿いのガラス工房などを見て回った。裕次郎記念館も見てきたが、2020年最後になった新潟行きの車で「恋の街さっぽろ」を聴いていたことを思い出す。

また「粋な別れ」での、命に終わりがあがる・・・も心に染みる歌詞だ。

2004年の北九州、2005年の沖縄～2019年名古屋・岐阜など、定年前後から国内各地を二人で旅行し



た。私は過ぎゆく日々をできるだけ有意義に過ごしたいという気持ちがあり、毎年のように旅行の計画を立て、妻がそれに合せてくれていた。

2017年、クローバーに居られ愛媛県に転居された方のご厚意で車をお借りし、しまなみ海道をドライブすることが出来た。後で知ったのだがその時はご主人を亡くされて間もない頃だったとのこと。悲しみの中で色々お話を伺うなど、自分に照らして大変だったなと思ひ有り難かった。

5年位前、クローバーの方から箱根・富士屋ホテルの会員券を譲って頂き宿泊したことがあった。部屋は旧式だったがやはり格式のあるホテルだった。レストランの入口辺りで記念撮影をしたことを憶えている。妻は療養中のその方に箱根土産を持参した。

2007年イタリア旅行、新婚さんと同じツアーでローマ、フィレンツェ、ベニス、ミラノ等を廻ったが、ゴンドラで相席して撮った写真など良い思い出になった。ローマでのオプションでは妻の希望で



夕べを過ごした。ミラノでは憧れのオペラ座で舞台衣装を見学したが、皮革製品などのお土産をもっと買えば良かったと何度か言っていた。

ベトナム・ホーチミン旅行ではホテル前道路でオートバイの流れが絶えず横断するのに一苦労だったこと、スイカ水が美味しかったことなど。メコン川クルーズ⇒ではベトナム美女のコーラスなどを楽しんだ。民族服のアオザイを買って帰ったがそれを着て外出する機会は無かった。

ソウルでは明洞のコスメ店、東大門・景福宮等観光地、ガイドさんにハングルの質問などが印象に。

香港では蜚夜のビクトリアピーク、妻がホテル着のタクシー座席に財布を忘れたが運転手が空港までそれを届けてくれたことを妻は何度も思い出していた。

妻はここ4年位転んで手足を怪我するようなことが多くなり、久里浜の整形外科に車で連れて行ったりしていた。

足首を痛めたとき、畳の部屋で過ごすため低めの椅子を用意した。しかし内科には行かず、市の特定検診も殆ど受けていなかった。

私は心臓の持病のためかかりつけ医で血液検査を受けたりしていたが、妻の場合癌に対して腫瘍マーカーなどで早期発見が期待できたかもしれない。

妻は若い頃スポーツ選手かと問われるほどの身体をしていたが、下半身は細めでやや不安定だった。

2019年私は町内会で理事を担当した。業務の経験を生かし総務部で広報の新聞「粟田だより」を発行したが、妻は前年より読み易くなったと褒めてくれた。それが私を元気づけ理事の仕事にやり甲斐を感じるようになった。

2019年10月、妻の古希の祝いを箱根・仙石原で行った。娘家族・妹夫妻と私が編集したホームビデオを観るなど共に楽しい時間を過ごしたが、夕食後のプレゼントで孫たちのメッセージ「いつまでも元気で」等を読み本当に嬉しそうだった。



そのような機会に「もう歳なんだから健康診断をしっかり受けて」と強く薦めるべきだったと悔いが残る。

2020年10月、**長岡市蓬平**で妻の従姉妹の会に出た。飲み会の席で色々歓談したが、後になって希代子が姉貴分で頼りになる存在だったと従妹の方が言ってくれた。饒舌な妹たちのお喋りを良く聞き話を纏めるようなところがあった。

その新潟行きの機会に二人で旧亀田町のお寺に永代供養をお願いしてきた。私の父母が眠る渡邊家のお墓に。

新潟行きでは横浜新道~第三京浜~環八~関越道の道をよく通った。関越に入ってから妻に運転して貰い、渋滞することもあったが二人で楽しくドライブできた。

2021年7月17日、妻の72歳の誕生日に娘家族3人が来てくれバースディケーキ・紅茶など頂いた。妻は孫息子に「旅行土産のほうとうをが料理出来たら食べさせて」と指切りをしていた。後でその日の写真を見ると少し痩せて病気の兆候が見て取れた。

その数日後、ファミリーレストランでの食事の頃から胃の具合がおかしくなったかな、と妻は言っていた。

2021年6月末と10月末に私は心臓不整脈のため**葉山ハートセンター**に入院しカテーテルによる手術を受けた。

1回目は入退院とも妻が病室まで付き添い、車で送迎してくれた。家に戻ってノンアルビールで食事したとき妻の有難さが身に染みた。休憩室が少し寒いと云っていた。

私が入院していた間、妻は食事が不摂生になりそれが発病に繋がったのかとも思う。私も夏風邪のせいか脈が上がりそれを気にしていた。

不整脈は残念ながらそれで治癒せず再手術となった。2回目手術には妻が亡く、娘に対応して貰った。病院の休憩室を覗いたとき、1回目で妻に来て貰ったことを思い出し胸が一杯になった。

以下、**7月下旬以後の妻の病状**について記述するが、今でも繰返し痛恨の日々だった。

※やや赤裸々な記述が含まれるが、私の思いを残しておきたい主旨なのでご容赦願いたい。

ものが食べられなくなって体力が落ちてきた頃、私は妻が洗濯機にかけた洗い物を2階に上げるよう手伝った。その後妻は洗濯も出来なく寝たきりに近い状況になってしまい、私がやるようになった。

茶碗蒸しやゼリーなら食べられるかも、など云われてスーパーで買物するようになった。



病状が悪化しアイスしか食べられなくなって不安が募り、娘や義妹に病状を伝えようとしたが、妻は「心配させるようなことはしないで」と拒んでいた。

それでも8月になって娘には病状が深刻な旨メールし、妻に見舞いの電話など貰ったがその時は「心配しないでいい」と明るい声で言っていた。

実際には食べられなくなり横たわるようになった妻の姿、目に焼きついて今でも涙が出てくる。

7月30日、横須賀市民病院で診察を受けた日、私たちは未だ風邪またはノロウイルスが原因かと想っていた。内科の医師に希望すれば胃の検査を、と言われたが妻は受けなかった。自分から胃カメラを希望、と言う気にならなかったからだが、超音波検査などしてくれていたら病変発

見が早く体力消耗が少なく済み急変を防げたのでは、と思ってしまう。妻の腹部は既に膨らんでおり単なる胃腸炎ではないと分かったはずだ、

その後野比駅前胃腸外科を受診させたが、胃薬を処方しただけ、胃カメラを依頼すると盆休み明けになると言われた。それを待てない症状だったため、胃カメラで検索し8月10日市内のクリニックを受診した。当日も暑い日で妻は「早めに行こう」と云い、定時前に待ち合わせた。クリニックで超音波診断の結果、胃の出口に問題あり至急措置が必要とのこと、市民病院に電話してくれたがその時癌とはつきり言われたら治療実績から共済病院をお願いしたかもしれない。

市民病院で検査の結果、胃幽門癌の疑いとのこと即日入院。翌日から妻の求めに応じて衣類や薬書・ラジオなど、コロナで面会できず看護師に預けていた。入院中の様子はメールでやり取りしていたが、「メールを送られると相部屋の人の邪魔になる」など気を遣っていた。入院後始めのうちは「大丈夫、家のほうしっかりやるように」のメールだったが、次第に元気を無くしていく様子が窺われた。後日病院側の説明では、癌手術可能の判断、確認のため種々の検査を実施したが栄養補給が上手くいかず点滴だけで体力を消耗していったようだった。栄養剤をいきなり胃の先に流し込んで腹痛を起こしたとのことだったが、その措置にも疑問が残る。内科を殆ど受診していなかった妻が種々の措置・検査と云われさぞ不安・苦痛だっただろう。病院スタッフによくして頂いた、とメールで言っていたが。妻のスマホに残された入院中の写真だが、色んな検査用機器だけが写っていた。

8月20日早朝4時過ぎ、私は妻の急変の電話を受け20分で駆けつけた。

トイレで車椅子から立ち上がれず意識不明になったとのこと。その後関係医を集め首からのアドレナリンなど処置があったが、その特別室での医師の説明では「脳への血流が15分位止まっていたので回復は難しいだろう」とのこと。

別件だが、入浴中に意識を失い溺れる事故が起きているが同様に立ち上がろうとして脳への血流が止まってしまったのではないかという気がする。

11時半、回復が見込めないため心肺装置など外し急性心不全として臨終の処置、と言われ呆然自失だった私はこれを受入れたが、簡単に諦めず暖かかった妻の身体をもっと抱きしめるなどすれば良かったのに、とここでも後悔の念。

後日カルテ開示を依頼し、意識不明になった直後の救命処置についての明記が無い（ベッドで全介助、くらの記述）ため説明を求めたが「看護師が適切な処置を行ったはず」との回答。私としては看護師が付いていながら助からなかったのか、心不全ならAED等の処置がされていたら血流停止は起きなかったのでは、との思いが拭いきれない。

人ひとり亡くなったのだから、関係者で経緯・反省点を確認などすべきだがカルテにはその記述が無かった。そこで不備があったことは病院も認めていたが、今後改善しますとのこと。

上記の救命措置について市の健康部市立病院課にも連絡し市民病院からの回答をメールで繰り返し依頼しているが2024/12現在回答は無いままである。。

本来なら死因解明のため解剖を依頼すべきだったが、今更・・・の助言も有りその日の午後追われるように妻の遺体を葬儀場に移すことにした。

臨終後妻の遺品が渡されたが、その前に妻が最期を迎えた病室を見ておくべきだったと後で思った。

死去の旨、先ずクローバの方々に連絡したが、葬儀前に見送りたいとして葬儀場で希代子と対面し見送って頂いた。葬儀当日の時間、クローバーの方々が希代子を惜しみ合唱して下さった。葬儀中、妻が好きでGHでも歌っていたフォーレのレクイエムを流すようにした。

また生前の回想：3月のこの時期、妻は近所の「秘密の場所」で露の臺を摘んできて露味噌などにして食べさせてくれたが、あのほろ苦さが忘れられない。

先日、クローバーの方がお花と色々な惣菜を届けて下さったが、その中に露味噌があった。私は妻と食べたあの時を思い出し目が潤んだ。

庭の花壇にミニトマト、胡瓜、小松菜などの苗を買ってきて育てたが、妻はそれを楽しみにしていた。自分では余り手入れをせず、私は「次はこの辺」などと促されていたが、育つところを一緒に見るのが楽しかった。



食事は若い頃から手料理が美味しく、クローバーの方々にも評判が良かった。魚料理が得意で、三崎の“うらり”や鈴木水産に出かけて食材を購入し色々な料理で食べさせてくれた。一人で食事をするようになるとやはり妻の味が恋しくなる。外食や弁当だけでは飽きてしまうし栄養が偏ってしまう。年とともにコレステロールや血糖値が上がり食事にケアが必要になってきた。三度三度の食事の度、妻が居てくれたらと思ってしまう。欲を言えば**妻の温かみのある家庭の雰囲気**も・・・

妻は台所のメンテナンス・・・ガスレンジの電池切れ、蛍光灯、冷蔵庫の仕切り板など・・・について私を頼りにしていた。電池の買い置きなどで私は対応に努めたが、頼りにされるのが楽しかった。

家の中の物を減らすことにも気を遣い、二人で何度かゴミ処理施設に不要物を搬出した。絨毯・マットレスなど購入しようとする、今ある物を処分しなくちゃダメと厳しかった。

希代子は亡くなってしまったが、その後娘が心配して食事等ケアしてくれ、クローバーの方々からお花や惣菜を届けて頂くなど希代子のお陰で交流が広がっている。また私の姉妹から元気づけのメッセージ、姪とのズーム・LINE等もあり元気づけられている。しかし妻の大きな存在感を失った辛さは如何ともし難い。時が救いになるだろうか・・・

22年の夏が近づくと、「**去年の今頃は未だ元気だったのに・・・**」という思いが募ってくる。命日が近づくとつれ辛さが増していくような気がする。

妻に先立たれて**3年目のこの頃**、時は抗いようもなく過ぎていく。生涯を顧みると妻の存在の大きさを改めて思う。これから何とか前向きに、と市民大学受講・介護事業所行事の参加など活動を試みているが、なかなかそれを楽しむまで行っていない。この夏も妻のビデオ編集やSNSなどで思い出を辿っていた。今後体調を見ながら終活などを少しでも進めていくようにしたい。

=====**母についてのエピソード（娘・真理子）**=====

<待ち合わせ>

私の母、希代子はどんな時も全力の愛を、真っ直ぐに注いでくれる人でした。

外で待ち合わせをすると、例えば駅などの人混みのなか、私を見つけると大きな声で「まりちゃん！」と叫んで、満面の笑みで手を大きく振ってくれました。私は恥ずかしくて「そんな大声出さなくても・・・」と思ったものでした。

今思えば、人の目など一切関係なく全霊で私への愛情を示してくれたのが痛いほど分かります。私にとって世界一のお母さんでした。

お母さん、本当にありがとう。いつまでも大好きです。私がそちらに行った時にはまた大きな声で「まりちゃん」って叫んでくださいね。

=====

一周忌を終えて

2022年8月20日の祥月命日の日に妻の一周忌法要を行った。

希代子の父方・母方の従姉妹、娘の親族の方々やクローバーの会にお声がけし18名の参列と10名ほどの供花などを頂きYRP野比駅直ぐの絆会館で挙行了した。

浄土真宗の読経の後、施主挨拶・思い出のビデオ上映・御齋・市営墓地でのお詣りなど、無事終わることが出来た。

その後も青山学院GHの方からの供花や妻が入院見舞いしていた方のお詣り、また「渡辺希代子を偲ぶ会」を開催して頂くなど妻が多くの方に慕われ心に残っていることが伝わってくる。

一周忌を一ヶ月過ぎたこの頃も妻と過ごした日々の思い出が胸をよぎり、妻と連れ添っての旅行、市内お出かけ、家での会話や仕草が目浮かぶ。いつも隣で見守ってくれていた。

家では言いたいことを言って口喧嘩もあったが、何をするにも妻がどう思うか・どうすれば喜ぶか、など抛り所であり温かみがあった。三度の食事を出してくれたことだけでも今となっては有り難い。

伴侶を亡くしての独り暮らし、それはやむを得ないこと、と今まで漠然と考えていたが、実際その境遇になってみると如何に辛く侘しい生活なのか、身に染みてくる。

毎日の家事等を今1人で何とかやっているが、苦勞が多く身体の衰えについての不安も大きい。

どんなに辛い時間も過ぎて行き終わりが来る、遅かれ早かれそれは皆んな同じこと、と思い日々を過ごしている。

希代子が天国から見守ってくれているので悲しませないようにという話を聞くが、希代子の思い出を胸に抱く私たちの中に生きているのだろう。私も死んだら“無”になってしまうが、誰かの胸に残るのかもしれない。



希代子を偲ぶ会

2022年10月5日、クローバーの会で渡辺希代子を偲ぶ会を開催して戴いた。

「別れの曲」ピアノ演奏、会員コーラス「ラピュタ・君をのせて」、思い出のビデオ上映そして会員の



方々の Zoom 参加を含め「思い出の一言」などを頂いた。。

和やかさを作り出す人柄、暖かい励まし、誰にもできないようなアルト、などのほか、話してみると一寸ドジっぽい、手足の怪我が多かった、などの思い出話で皆さまの思いが溢れていた。

これだけ多くのお気持ちを頂いて、希代子は人生を振り返り喜んでいると思う。

私も希代子への想いを胸に、今後の道を歩んで行きたい。

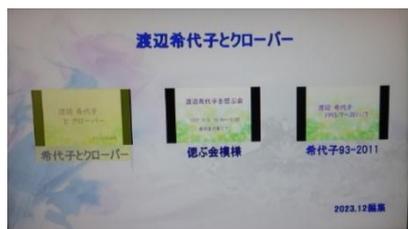
2023年の命日

娘家族と墓参り、市営墓地近くの一乃庵で食事を摂りました。



2023年12月17日

「渡辺 希代子とクローバー」(ファーストコンサート～2019 コンサート)のDVDを編集しクローバーの方々に進呈しました。



2024年の命日

仏前にお花、果物を供えました。クローバー有志の方にも変わらず墓参をして戴いています。



妻は闘病生活で長く苦しむこと無く、**潔く逝って**しまったが、やり残したことや言い残したいことが色々あったらう。

私も妻と寄り添う時間をもっともっと持ちたかった。残念であるが、**希代子は48年間拙い私の伴侶**でいてくれた。本当にありがとう！

妻の逝去後、Facebook に載せた**フォト俳句** の抜粋を以下に添える。

2022/5/17 二色で野なかに咲けるクローバー



5/15 また会える ケヤキの緑くぐり抜け



4/7 公園でほのかに紅く 春の風



3/28 今年また忘れず花は咲き揃う



3/4 青空に緋桜 今年何思う



3/20 房総が近くになりぬ彼岸の日



2/24 白梅の蕾は紅く 水温む



2/17 妻がよく立寄りしこの無人店



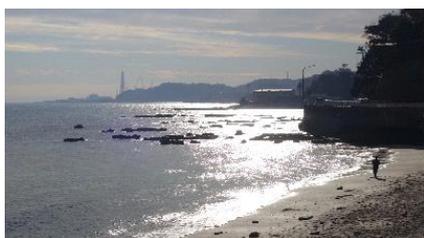
2/2 青空に白梅ひとり今年また



1/29 去年ここで我と歩みし人はいま



1/9 たたら浜輝く水面遠い道



2023/1/4 願わくはあの日のことをもう一度



11/8 今年また会えて侘しいこの世界



10/26 夕空に紅一筋 いつか見た



妻の逝去後、Facebook に載せたフォト俳句の抜粋（つづき）

2024/8/13 今年また面影浮かぶ墓地の夏



7/17 岩場より見送る船やいずこへと



7/3 荒崎の奇景 我が身を振り返る



6/8 紫陽花の赤青ならび涼やかに



5/19 今年また生涯学習 励むとき



4/11 ネモフィラに漂う想い いずこへと



4/5 また会えた花の命の逞しさ



2/14 春めいて少し欠けゆく富士の雪



2023/11/19 今年また色づく世界 密やかに



10/30 今年また色づきしこの並木道



10/28 独り見る赤い満月秋の宵



8/12 この道を上がればあの日よみがえる



6/1 幾たびか二人で来しこのレストラン



5/25 紫陽花の色づく五月ひとり往く



4/20 ネモフィラの海に面影また浮かぶ



3/29 昔来た公園の道 いま独り



3/22 いつかまた逢える気がする 春木立



2022/11/18 行く秋に歩むこの道いつか来た



7/26 ハマユウと見れば市の花妻の声



6/24 我が庭に紅一点の若き百合

